

F-4 女子青年の人格形成に及ぼす影響について(第2報)

帯広大谷高 O山田昌子 北海道大教育 田島信元

目的 第1報で、青年期における女子のパーソナリティ形成に大きな影響をもつものとしてあげた、愛情に満たされた情緒的経験とはどのようなものかを知るために、その指標として親子間の認知のずれを調査し、情緒的経験とどのような関係にあるのかを見出すことにした。

方法 仮説として、認知差の大きいことは情緒の不安定につながるものとして、つぎのような調査を行なった。

1. 環境調査により、好ましい家庭と好ましくない家庭に区別する。

2. 区別したそれぞれの家庭の親子関係について、親子調査票によりどのような情緒的経験をもっているか、どのような点に認知差が生じているかを調査し、区別した家庭を比較してみる。

結果 上記の調査により、親子関係に認知のずれと、環境との関係においても認知のずれにちがいの生じていることを見出した。認知差の大小が女子青年の情緒安定に深いつながりのあることを認めることができた。